

## 令和2年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

### 「土砂災害への対策を考える」

岐阜県 海津市立石津小学校 6年 江口 翔星

ぼくが、この作文を書こうと思ったきっかけは、今年の7月、豪雨で全国各地で大雨となり、洪水が起こったからです。その時、岐阜県の飛だ地方にも大雨特別警報が発令され、下呂市で土砂災害が発生しましたが、砂防ダムが土砂を防いだというニュースを見ました。それまでぼくは、砂防ダムは本当にはたらくのか、とっていたので、砂防ダムの大切さが分かったニュースでした。さらに、ぼくが住んでいる地域は土砂災害警戒区域です。警報が出たらちゃんと避難できるのか、今のままでは危ないと思いました。

ぼくが住んでいる南濃町には、羽根谷砂防ダムがあり、以前、家族で見に行ったことがあります。そこには、砂防遊学館という学習館があって、砂防ダムの仕組みやはたらきについてVTRなどで学べるようになっています。ぼくは、砂防ダムについて学習するまで、水を貯めるダムかと思っていましたが、砂防ダムとは小さな溪流に設置される、下流の住宅への土砂の流入を防ぐものだと分かりました。遊学館で、実際に土石流を起こして砂防ダムのはたらきを実験できる装置で遊んだ時、ダムがないほうは、土砂といっしょにおもちゃの家が流されてしまったけど、ダムがある方の家は流されませんでした。それで、砂防ダムは効果があるのだと分かりました。しかし、羽根谷で本物の砂防ダムを見たとき、つくりが単純で、これで安全なのか、人の命を守ることができるのか、とも思いました。でもこの間、下呂のニュースを見て、本当に砂防ダムは人の命を守ることができるんだ、大切なものなんだと実感しました。

ぼくの住んでいる地域は、ハザードマップで土砂災害警戒区域になっています。砂防ダムも設置されているところなので安心です。しかし、土砂災害に対してどう対策すればいいのか、考えておくことが大切だと思い家族といっしょに考えてみることにしました。

1つ目は、避難場所と避難経路を確認することです。いざという時、スムーズに避難を行うことができるからです。土砂災害警戒情報がでたら、ぼくのうちの避難場所としては、山側からはなれている石津小学校が一番よいと考えました。しかし、石津小の近くには大きな川があるので、洪水の危険がある場合は逆に家にとどまることにしました。どちらの危険もある場合は、城南中学校に避難します。

しかし、もしも避難がおくれてしまった場合は、家の中で垂直避難するしかありません。ぼくの家の場合、2階の両親のしん室が一番山からはなれているので、そこで過ごすようにしようと考えています。

2つ目に考えたことは、非常持ち出し袋を準備したり、水や食べ物を用意しておくことです。調べてみると、家族が3日間暮らせるくらい必要だと分かりました。水だけでも1人2Lペットボトル5本くらい必要です。思ったより多くてびっくりしました。さらに、1年に1回程度、確認することも大切です。食料などの消費期限が切れていたら危険だからです。家族と相談して、ぼくのたん生日でもある9月1日防災の日に、確認することにしました。

3つ目は、大雨が降ってきた時、雨や山の様子を見たり、外のおいをかいだり、ニュースを見て情報を集めたりして、自分で避難したほうがいいのか考えることです。土砂災害が起こる前は、土のおいがするそうなので、においにも気をつけて早めに避難したいです。

『過去の自分が未来の自分を救う。』土砂災害について考えていたら、こんな言葉が思いつきました。過去の自分を反省して、今の自分が準備して、未来の自分や家族を守るように、土砂災害への対策をてっ底していこうと思います。